



### 第2回学校運営協議会を行いました

10月6日(金)に、第2回学校運営協議会を行いました。学校運営協議会では学校より、今年度の全国学力・学習状況調査の結果について委員の皆様にご説明をさせていただきました。その中で、特に以下の3点については、学校、家庭、地域が連携・協働して重点化した取組を行っていくことが必要であると確認をしました。

#### ○学習意欲の向上

「授業はよくわかる」と回答している児童が多いわりには、「国語や算数の学習が好きだ」と回答した児童の割合が低いことが気になりました。言われたことはきちんとできるけれど、自分で考えて動くことは苦手な児童が多いです。これからは、子どもたちの「自分で考えたい」、「もっと調べてみたい」という気持ちを引き出し、知的好奇心が育まれるような場をつくっていくことが大切です。今後、学校では「受け身の授業からの脱却」を目指し、授業改善に力を入れていきます。あわせて、日々の生活の中で子どもが「なんで?」「どうして?」と疑問をもった時に、まわりの大人がどんな関わりをするといいのか、コミュニティ・スクールのさまざまな活動の場面で、保護者の方や地域の方にも意識していただけると幸いです。

#### ○読書習慣の定着

4割近くの児童が、読書に対して否定的な考えを持っていることがわかりました。今年度、コミュニティ・スクールの活動として「本の宅急便」を実施しましたが、高学年児童の利用が少なく、次回の実施に向け課題となっているところです。子どもたちに聞くと、「読みたい本がない」「図書室へ行くより運動場で遊びたい」といった声が返ってきました。学校司書さんをお願いして、嬉野中学校でよく読まれている本を中学校から借りてきてもらったり、図書委員会で「高学年の児童が読みたいと思う本についてのアンケート」を実施し、高学年児童に人気のある本を購入したりして、今後も図書室の環境を整えていきたいと考えています。

家読(うちどく)用の本も定期的に入れ替え、身近な人と一緒に読書を楽しむことを子どもたちに勧めています。お子さんが本を持ち帰ったら、ぜひご家庭と一緒に読書を楽しんでいただきたいと思います。また、図書室の地域開放日も設けていますので、お気軽に図書室へお越しください。地域開放日には学校司書も在室しており、本の選び方や最近の新刊についてなど、ご要望に応じてお話をさせていただくこともできます。

読書は子どもの知的好奇心を刺激し、想像力を育みます。保護者の方、地域の方と一緒に、読書を楽しむ子どもを育てていきたいと考えていますので、楽しい読書活動のアイデア等もしあれば、ぜひお知らせください。

#### ○自分の気持ちや考えを人に伝える力の育成

3割の児童が、人に気持ちや考えを伝えることが苦手だと感じていました。否定されたり、「違うよ」とはっきり言われたりすることに対して、敏感な子どもが多いです。「あなたが悪い」と

